

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-2	高等学校	農業	野菜	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	農業 716	野菜		

1. 編修の基本方針

- ・野菜の栽培やそれに伴う実験・観察などを通して、生命や自然を尊ぶ態度や真理を求める態度を養うことができるようにする。
- ・本文の記述展開にあたっては、基礎・基本がしっかり理解できるように、必要に応じて学術的な試験データなども取り上げる。
- ・生産者の立場からの記述に加え、消費者としての視点も加えた構成・内容とする。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
本文	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した野菜生産の方法などについて取り上げ、農業と環境との関わりについて考えさせるような心がけた(第4号)。 ・生産者・消費者の両者が関わることで農業が活性化されることについて理解を深めるため、グリーン・ツーリズムや市民農園について取り上げた(第3号)。 ・野菜の生産や経営をとりまく現状への理解を深めるため、実際に行われている取り組みや新たな試みなどについて取り上げた(第2号)。 	p.23-25 p.26 p.76-77 など
図表	<ul style="list-style-type: none"> ・学術的な試験データなども、記述の裏付けとして、必要に応じて随所でとり入れた。ただし、グラフ化したり、図・表説明を付記したりして、データの内容を読み取りやすいように工夫した(第1号)。 	p.24, p.32, p.110, p.167 など
野菜の履歴書 野菜のあれこれ	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の来歴や野菜に関する話題などについて取り上げることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにした(第1号)。 ・野菜の来歴を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することができるように配慮した(第5号)。 	p.80, p.90, p.94 など
考えてみよう 調べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・側注欄で適切な課題を挿入し、生徒が自ら考え創造力を高めるようにも配慮した(第1号)。 	p.43, p.101 など
見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の原産地や、日本の地方野菜、西洋野菜、中国野菜を取り上げ、日本と他国との関係性や違いが学べるように配慮した(第5号)。 	カラーペー ジ p.1-2, p.7, p.8

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-2	高等学校	農業	野菜	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	農業 716	野菜		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●全体的な編修方針

1. 野菜の生産と経営に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して、野菜への興味・関心を喚起できる内容とした。
2. 生産者の立場からの記述に加え、消費者の視点も加えた構成・内容とした。
3. 本文の記述にあたっては、文章はできるだけ短くし、箇条書きを多用するなど、簡潔平易な表現を心がけた。
4. 読みにくい用語にはルビをふり、また重要用語はゴシックにするなどして、生徒が読みやすく、理解しやすいようにした。
5. 本文の記述展開にあたっては、基礎・基本がしっかり理解できるように必要に応じて、学術的な試験データなども取り上げた。その際は、データの要点を選び出し、適切なグラフ表現とすることで理解しやすいように工夫した。
6. 生徒の興味・関心を喚起するために、野菜の来歴や野菜に関する話題などについて、「野菜の履歴書」や「野菜あれこれ」で取り上げた。
7. 生徒の知的好奇心に訴えかけ、自発的な学習を促すため、側注欄に「調べてみよう」などの課題を適宜配置した。

●各章の編修方針

- ・序章「野菜を学ぶにあたって」では、プロジェクト学習について簡潔に解説し、これ以降の学習において、プロジェクト学習を意識しながら進められるよう、目標設定の仕方や具体的なプロジェクトの例を紹介した。
- ・第 1 章では、組織・配列の面で、各論学習の準備段階として、野菜の種類や生産方法、消費者の手に渡るまでの流通経路などについて、わかりやすく解説した。また、環境に配慮した農業、市民農園やグリーン・ツーリズムなどについても取り上げ、農業と環境との関わり、農業と生活との関わりについて関心を持たせるよう心がけた。
- ・第 2 章では、各論に入る前に、野菜の生育と生理、野菜の栽培環境と生育調節や人工環境における栽培技術について、基本的な事柄を取り扱い、各論の基礎を培った。また、本書を理解する上で必須の生物学的知識や基礎理論（例えば光合成など）の解説は中学理科の学習を基礎に、できるだけ平易で理解しやすい記述とした。
- ・第 3 章「野菜の育苗」では、各論の前段階として、育苗の方法や、育苗技術の実際と応用についてわかりやすく解説し、各論への橋渡しの役割をもたせた。また、近年盛んになっている育苗産業について、取り上げた。

- ・第4章～第6章の各論では、各作目の栽培から出荷まで、その農業生物の特徴についてより詳しく学習できるように努めた。また、各野菜学習の冒頭には、生育の全経過を図で示すことで、その作目の一生の全体像が視覚的に把握できるように工夫した。さらに、栽培の評価では、生徒たちが実際に栽培した場面を想定し、多方面から栽培の評価ができるようにした。各作目の最後には「実践課題」を設け、生徒が主体的に野菜栽培に取り組めるよう工夫した。
- ・第7章では、野菜生産の経営改善について、これまでの学習を踏まえ、流通のしくみや、作業体系とその改善、生産費に関する内容、経営改善、野菜生産の課題などを掘り下げることで学習のまとめとするとともに、野菜栽培経営のための指針とした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
序章 野菜を学ぶにあたって 野菜とプロジェクト学習	(1) 「野菜」とプロジェクト学習	p.5-10	4
第1章 野菜生産の役割と動向 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費 3 野菜の生産と供給 4 野菜の安全性	(2) 野菜生産の役割と動向 ア 野菜生産の役割 イ 生活と野菜の利用 ウ 野菜の流通と需給の動向	p.12-14 p.15-17 p.18-22 p.23-26	10 (1) (2) (4) (3)
第2章 野菜の生育特性と栽培環境の調節技術 1 野菜の生育と生理 2 野菜の栽培環境と生育調節 3 人工環境における栽培技術	(3) 野菜の特性と栽培技術 ア 野菜の種類と特徴 イ 野菜の生育と生理 ウ 栽培環境と生育の調節 エ 品種改良と繁殖	p.28-40 p.41-46 p.47-58	18 (8) (4) (6)
第3章 野菜の品種改良と繁殖 1 品種改良の目的と方法 2 育苗の目的と方法 3 育苗技術の実際と応用		p.60-63 p.64-67 p.68-78	11 (3) (3) (5)
第4章 果実を利用する野菜の栽培 1 トマト 2 ナス 3 ピーマン 4 キュウリ 5-1 温室メロン 5-2 ハウスメロン・マクワ型メロン 6 スイカ 7 カボチャ 8 イチゴ 9 エダマメ 10 スイートコーン	(4) 野菜の栽培と管理・評価 ア 品種の特性と選び方 イ 作型と栽培計画 ウ 栽培管理 エ 商品化と生産物の管理・評価 オ 機械・施設の利用	p.80-89 p.90-95 p.96-101 p.102-111 p.112-117 p.118-123 p.124-131 p.132-137 p.138-147 p.148-149 p.150-154	53 (8) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (5) (8) (1) (1)

第 5 章 葉や花茎を利用する野菜の栽培	(4) 野菜の栽培と管理・評価		27
1 キャベツ	ア 品種の特性と選び方	p.156-163	(7)
2 ハクサイ	イ 作型と栽培計画	p.164-171	(4)
3 チンゲンサイ	ウ 栽培管理	p.172-173	(1)
4 ブロccoli	エ 商品化と生産物の管理	p.174-177	(1)
5 レタス	・評価	p.178-185	(3)
6 ホウレンソウ	オ 機械・施設の利用	p.186-191	(3)
7 ネギ		p.192-197	(3)
8 タマネギ		p.198-204	(5)
第 6 章 根を利用する野菜の栽培			10
1 ダイコン		p.206-212	(5)
2 ニンジン		p.213-218	(5)
第 7 章 野菜の流通と経営改善	(5) 野菜の生産と経営		6
1 野菜の流通と鮮度保持	ア 生産目標と経営計画	p.220-225	(2)
2 加工・業務用野菜	イ 生産工程の管理	p.226-229	(2)
3 野菜生産の経営改善	ウ 流通と販売	p.230-235	(2)
	エ 地域環境に配慮した野菜生産		
		計	139

注 配当授業時数は、4 単位を想定している。